

繪入正月揃

二

京乙
6
387

別圖

5-3
3-3



国立国会図書館 タイトル『正月揃 6巻』 請求記号 寄別5-3-3-3

ガラス使用

入繪

正月揃

二

法花宗 <small>わつげしゅう</small>	真言律院 <small>まごんりつゐん</small>	余下 <small>あご</small>	神祇 <small>かみぎ</small>
山伏 <small>やまぶし</small>	淨土宗 <small>じやうどしゅう</small>	山居 <small>やまゐ</small>	山門 <small>やまかど</small>
二		独住前 <small>ひとりぢゆうぜん</small>	

京
6
387

別圖



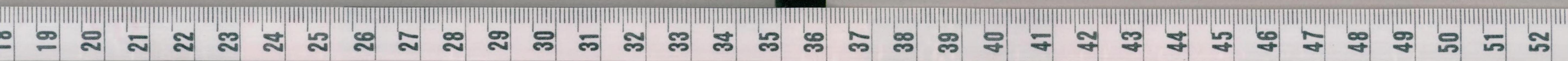


大正
7. 2. 26
購求

正月拵卷二

才一神祇乃正月

とて色く神祇乃正月と社壇乃作り拵わ
らしく造作乃拵わらひの序拵作備皮膏
のひの瓦屋茅屋ぬ敷廻廊躰井垣瑞蘇門
和乃る居葎子を戸八瓦園板瓦懸懸突口
門の飛米砂金青緑青胡粉去黄色く絵の
具是を個へ彩さく之歳徳神と初として
子娘の御供八種の菜九種の惣持斗檜小餅
茶園粉赤飯饂飩柿餅梅棗柿餅の菓



国立国会図書館 タイトル『正月拵 6巻』 請求記号 寄別5-3-3-3

ガラス使用

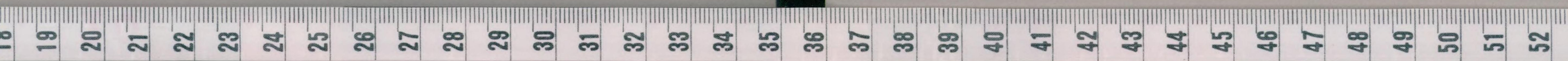
百味の飲食を潤喉の薬より湯室及門曲より
 菟刑日よは辰を遷り大宮月神と燈九師
 戸を閉じおのく散米を投擲し扱ひまをい
 連を川幣帛と鴛被を誓し毆去被を百
 や捷ゆ子八し女巫禱を振次を神樂く
 ちれを吐く幣を弁振中襖の仔尚の
 切髪支干の目並かきそ當日神の位より約
 めて致向く再ぬく。その後には幸れ糸條の
 糸礼の幸の治興。卯月の神放生香の栴葉
 是火焼常火焼除付の灯の燈籠灯籠紙燭

蠟燭灯亭の光昼夜のさういやくけ穢を清
 むる燧管不浄を清く水で洗川糞取踏踏る
 禿舎のあ後好宮の掃除社友れのおく名不
 小ぬ巨舎のいこひよ晴清酒とくに扱か
 餅ぬぬあそ社人もわり。建鳥帽子打鳥帽
 子貞宗大口白より製米ぬき扱むれ宗とら
 りに活斗懸く。所書れ日うげよりそよ子
 ちを乾く物あそり。ゆ赤ゆをく。押さけ
 なく色伴染太神宮へ天祚七代伊勢禰伴時
 冊子一女地神の才一として天下をおとらふ



と記す。あまのく海川乃禰師を守護給ふ。
 越前八國守比の天の神八人王十四代仲哀天
 主なり。築紫香推のまは十五代神宮皇孫
 胡降伏乃神女折して向て八幡宮
 八人王十六代應神天皇三十代欽明天皇の宇
 蓮臺より蘇我鹿山四方四角をトハまの樓
 聖なる川そのくらしは形わくまの念字
 札虚をくらし降下して鏡宣忠吟移く瑞お奇
 物ありしよふいと海わくまを法乃が嶽と
 美形なる海乃嶺の頂より鏡をくまの念字

正平天皇神龜四子廣幡八幡太神宮也
 わらわもそのくらし三百余歳を經く人王五
 十六世清和天皇これ行敷和尙と鏡
 貞観元年八月廿三日山崎坐久世郡男山乃
 宮よ梅ももる。筑紫乃文一折なり。祇堂八
 半頭天皇也。三十一百三十社乃大神
 之中七百三十七社ハ祇堂乃秋ものも。鏡
 海二子三百九十九社ハ六十余ヶ國皇司おの
 くうなるありの幣帛をまもる。いり別よ
 廿二社幣帛をまもる。早水風換懸かき



穀の勢を以てなり。其二社に石清水を留祇
 園小形とんつこのの四社よに延表武の祓名帳しんたふちやうを案あずるふ
 ように式部しきぶの社やしろしりあり。なほはさう敷さう敷
 らざりしと後朱雀院しゆくわくゑんの山宇長曆きやうりき三さんの介
 小こ二社定まめしきと後不塔不減ふたふげんなり。さうは
 祓名を氏子うぢこをまじらせあふゆ石清水いししみづ代使しろひよ
 源氏げんじ人春日はるひの代使しろひよ八坂系やちり氏うぢなり。わゆへを
 菱家あしけの一人とてとてとて三さん子し七百しちひゃく余よ社の
 太神たいじん。七しち子し三百さんひゃく余よ社しやれ小祓せうはらひ。二千にせん余よ森のの神のかみも
 外そと述のるれいと海うみわくとて子こ國くに家や擁護ゆうごの終しゆうを

るれを祓はらへねとの勢いきりぬぬ代しろひ入いくもいん
 ひ苑ゐんの社しや家やれ正月しょうげつ揃そろを

才さい二に山さん門もんの五ご春しゆん

西さいの丸まるをれし珠たまのささりんと海うみさり。りくりく代しろひ
 ちち子しを水みづれこゆりよせしわのくもい
 高たかの代しろひしに終しゆうのあふ代しろひよ一いつ片ぺんの
 わしたまづたまづ代しろひを二に和わるひぐぐも小こ法ほふ勢せき天てん
 傍たがひ心こころああくもよよ終しゆう傍たがひ心こころ法ほふ下げ。ささわわたたままののととららは
 大おほの署しよ系けいききここもも小こののささぐぐみみ律りつ師し。中ちゆう尾ゑの傍たがひ
 心こころ中ちゆう尾ゑれ別べつ南なんらんらんのの法ほふ服ふく坂さかががららるる



大納言中納言少納言トあり宰相入并小并
 二位三位中納言少納言少納言同朋ありいそ長
 納言納言衣冠法眼縁のこしわたりいひ
 ことごとく免がんとおとりの長らしたるのさゆくれ
 かまふまふ嘗縁をいに出仕天下安令のちこれ
 ひ中納言りとのが坊院におゆりらごわい
 並看くしゆくれさうゆとらあめさうにゆき
 ことごとく免がんとおとりの長らしたるのさゆくれ
 かまふまふ嘗縁をいに出仕天下安令のちこれ
 ひ中納言りとのが坊院におゆりらごわい
 並看くしゆくれさうゆとらあめさうにゆき
 ことごとく免がんとおとりの長らしたるのさゆくれ
 かまふまふ嘗縁をいに出仕天下安令のちこれ
 ひ中納言りとのが坊院におゆりらごわい
 並看くしゆくれさうゆとらあめさうにゆき

るいりちりくくのき法とかてかひくお世世
 万代行かあ傍もわりりかひと礼盤
 せり法則をいじ老傍もりかひ大教あ人
 糸池仁と徳とわんとくこと何傍流わりあ界
 一千余りの法やひくよりの水指煮煮煮唐
 木の縁敷と押きんであまきうに神呪と
 ありふとふと下の八王子林藤よ三とた一社
 の冥意成やざりう丹波成抽て法園をえ
 と形やまよしむかのづう万民安福の書を
 じんくあそあれた正月といふふり



才二禪宗の天臘

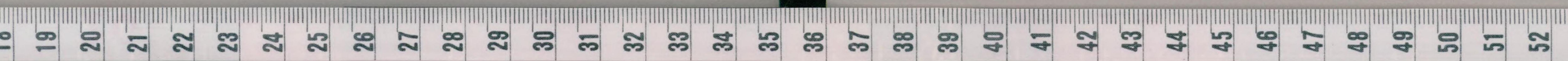
新奉願の仏法まづ禪宗養林の正月法
 山十刹又山天下の牛寺未ちお修め修め
 賞ををじしとれ衣黄衣赤衣長老をむ
 寺宿らう傍お後のそ丸書紀さしとし
 や禪師沙弥唱念家乃衣袈乃けさ
 袈袈らうさうれ衣月袈袈くくらがうし。珠
 敷せりささどぶとんかく衣鞋らうし
 ちとくらうやく中子仏殿乃た右う
 五そろひ修持焼香三修乃後子仏のを

を非部修成祝しかまのく方丈の修礼
 大龍かろく衣袴圍乃でんでらうくまり
 機縁と何の礼お修運とくく缺して
 後回礼おらうらうくの菓子湯茶礼られ
 わり。後服乃人教お修の時ハ法堂とわびり
 修營奔走は次才規矩わり酒而まらうと
 しあのまら酒菜とを拵まづ芋汁粥を煮
 て乃ら修持乃あしハ修する茶ハ香和海松ふ
 さい。くくくくくくく干菓り茶さんやう
 わ二乃膳と茶乃飯蔬汁せり厚兒豆脍



乃多おやびのかりさうり干虎杖多んぞ
 那莖葉乃浸わりのり松茸わさび水冷
 汁三乃膳わりの葉ハ納豆海草浸葉おわ
 のて後浸なれハ産死よまらせ。偽堂小着
 くら成乃へわらひき。四首症乃うな妻一妻二
 昔口ぬれ人殺とささ。心継のありハ老偽小
 偽小姓乃一懸屏風と引纏とあまらわらま
 寄しわりの茶堂ハ役人ハ簞子成みぞ。水と
 ぬいハや茶ハや。天目茶碗とわら。いそ
 湯成たぶとむる小盃にぬく。此とわびて

しらがる葉子ハ梨拵うら。偽葉おの
 先くもらつてんで。榛く。わさ。雲の掃く
 尺柄子盛楊枝と。飯く。茶ハ。梅尾。磁。翻
 心堂前を。後。入。物。苑。宇。治。川。上。伊。賀。初
 鳥。肉。山。さ。か。わ。く。の。名。茶。を。あ。の。ち。茶。つ。が
 茶。桶。ら。や。う。と。磨。り。れ。ら。秘。茶。れ。ら。こ。び
 ち。の。二。妻。三。妻。の。花。お。う。の。て。日。中。放。参
 の。わ。い。ぶ。ふ。茶。終。成。着。傍。ら。も。あり。寺。成
 くら。も。願。符。まん。ぐ。に。眉。成。ひ。ま。び。り。あ。え。も
 わ。り。沙。弥。喝。食。も。万。り。と。ま。げ。う。ら。く。文。子



とこのまゝく梅よ題しきよ此をて句
 と此のうらりり毎月毎日寺家の三昧期若
 れ勤り法堂の右殿の庫裏に折飯の
 煮ハ玄的の爰成おらうし玄常迅速此月
 日んやくちくちく秋まきまよけらめく
 佛林の冥意よいあお付の寺家の門の祥
 福あつふく方丈の月さくかぎく繁
 昌のまらちとあり師祖よおあよわら
 二六月中あ閑言事わく養林の正月大
 晴かぐろく

身三同独作の乃歳初

老隱居の乃まふり小かまら同者ハ
 主翁とちり作物比立ハ同者とくじ事
 物しぬぐのよの座と此矣白く秀句と
 らたぐ先夜云く門徒は春あひまり祝
 畏とくく先正月の形事とくく之式法
 小をねとゆるのいそく養林よかんあ
 煩のぬが己が貪福よとくくむく
 かあぐりべ一交事友の在所とくくも
 いさ焼香礼お同く
 今と白事

大禮越前寺の行徳園山乃謝礼人きん
 多しの正月乃ち二月乃ち三月の
 桃花良四月九日せんよう月く結友又月
 此陽年萬蒲乃せらるる六月才友七月九日
 うらがん九月のま陽菊乃會十月乃開徳月
 く運應忘十一月乃冬十二月乃臘八日
 しくくをひひけりそそ作堂而此正月ハ
 万のう下場不滅乃定歩勤りぞせん懈怠
 こ欠とみぞ先布衣七條紙衣物と由り
 かろくせん乃とよはる常々白と乃一海

よつ成け終の系れ落るらでさふ吾相念
 のれりりそと由。菓子ハうかすいらあ
 ところ。風情のまの茶ハ膝味散茶や
 一大事因縁れ終り座乃批判乃介化す
 あく作事の正月乃かくれ
 中田同舎下山君れ芳春
 青内初遊ゆ来るのこ六祖惠徳禪師ハ
 洞源海乃支流乃佛法てこくれ
 書後一知識乃人ハ迷ハとそそん
 くわんざやよおは堂ま乃お殿よ下



越前えちぜんとある万まんがらがらりり施しくくありあり小せう袂たもとと
 ころしころし水みづびびららりりぬぬりりいいああしし藤ふじ
 茶ちや湯とう飯はんわけわけががすすかからら体たいととああるるいい初はつのの末まつ
 練ねんのの傍はたはにに被かけけるるづづららおおぐぐららびび若わくくづづらら
 のの決けつわわぎぎよよああららりりおおけけてて徳とく方ほうええらら
 一一。空くう腹はらののささづづききととかかりりああららななりりかかわわららまま
 旨旨いいままここううけけづづらられれをを多た禪ぜん多た子しでで師し
 家けれれ後ご段だん西せいせせぎぎをを毎まいののここととんん。藤ふじ沙さ
 深ふかととののここととはは大だい事じををけけてて放はな多た時じ時じ附つ
 ととままららててままくくははくくののここととああららいいははははななて

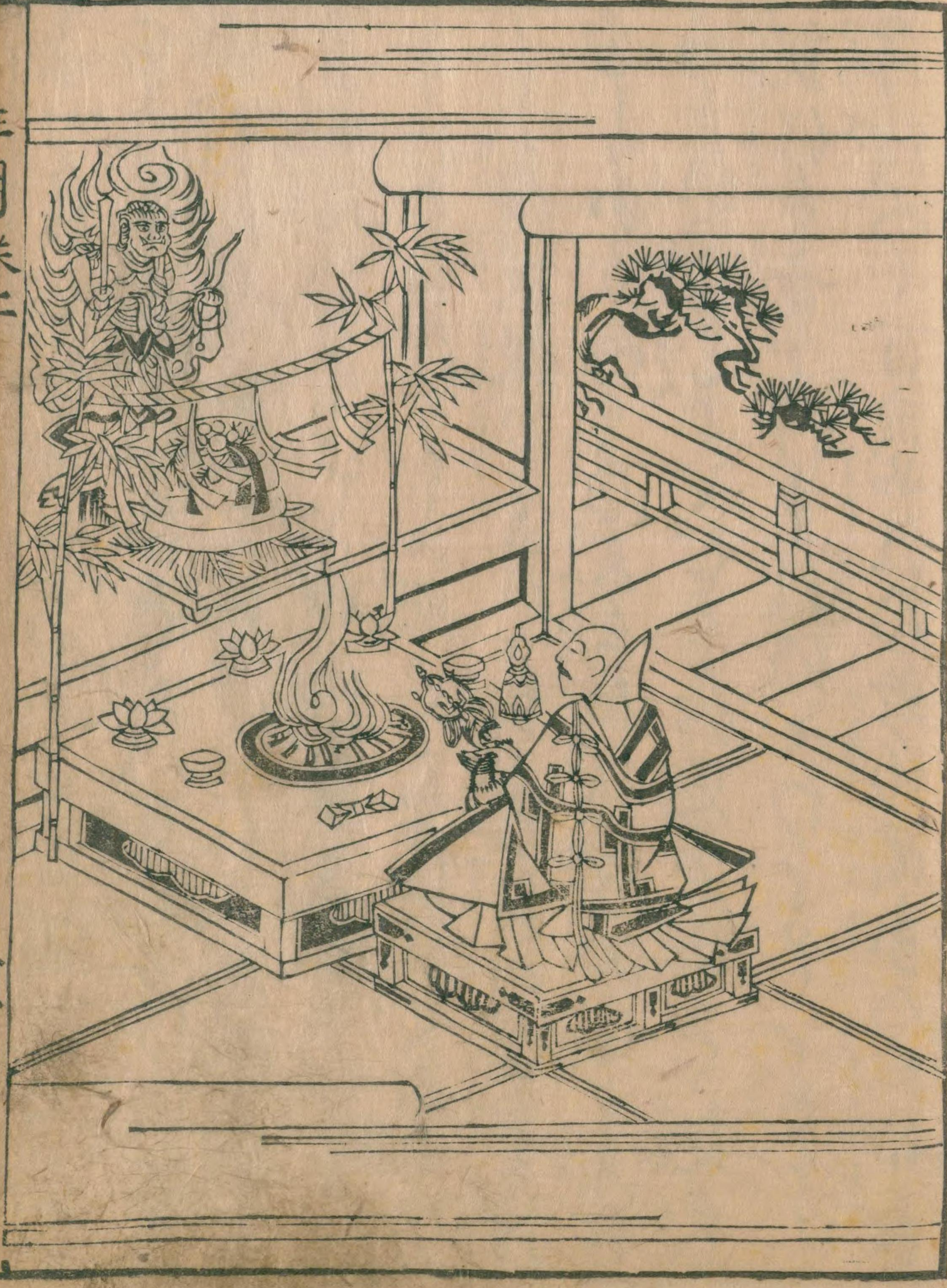
懐なつたたののここららぎぎ一一切けつめめててははわわよよ仏ぶつ視し
 此こゝのの下したににかかあああありり正せい月げつ十じゅう六りく日にちふふいいててハ
 ままここ押おしけけここづづららりりととううけけ手て中ちゆう末まつ韃たつ松しょう子し
 主しゆ杖じやう助すけ禪ぜん盤ばん竹ちやく蓆せき脚きゃく布ふのの脚きゃく乃の乃の之の取と
 付つわわぎぎととううけけびびよよううけけ法はふ玉ぎよく一いっ見けんれれ知ち識し有ゆうん
 ええんん乃の信しん有ゆうんん一いっ不ふ立たつ文ぶん字じれれ別べつ傳でんいいららりり
 云い向きやうととりりののここととううけけ一いっ自じ己ぎ一いっ雙じゆう乃の信しん有ゆうん
 按お下したるるととううけけ又また果はつ乃の信しん有ゆうんんととううけけ梅ばい
 板いた長ちやうととううけけ目めのの唇しんかかぐぐ水みづとと及およららりり本ほんれれ
 板いた成じやうりり燒やう灰かい頭とうととううけけ一いっ十じゅう九きゅう生せい徒た人にんととううけけ



是く化よゆぐされとりのいそ清阿
ど普びめくさひおけしんせまお
し。是心居の正月春の庵でてぬ漢乃氷

中又真云律院の教始

先若殿の神中る大目不動三具是明洞花
雜うろねんく心燒香のけりり
像中弘燃りくかこく物うごるねど
らさる和仏具一流立あつべ。一乃室二れ室次
青丸信を道員乃衣たあ右前蒙装とくけ門



夜いさま白く音炉。おあご。取個。松殿。中
せう。三。おの。好。長老。其。礼。さ。い。の。志。あ
貴。干。わ。あ。つ。お。ま。が。ら。い。づ。暮。花。野。を。も
己。烟。孔。お。い。つ。て。好。湯。盆。と。扱。さ。け。い。さん
ま。の。か。わ。び。う。い。ぬ。く。な。は。け。く。三。反。り
し。度。賣。鍊。お。ま。れ。り。ら。修。慈。の。乃。る。お。院
か。し。お。り。わ。く。乃。ま。ま。い。秘。護。摩。の。檀。よ。よ。り
阿。多。い。の。密。下。と。び。と。い。ん。思。成。海。く。親。急
親。法。を。吾。を。わ。し。れ。地。と。り。と。く。と。あ。と
律。儀。又。く。百。戒。必。法。の。終。り。國。家。の。お。持。長

久乃正月

才六 浄土宗 八青旦

吾。常。八。時。成。あ。く。と。と。南。無。阿。彌。陀。佛。門。く
く。の。松。秀。子。年。は。あ。ふ。か。ぎ。り。わ。り。と。最。幹
の。鐘。鼓。う。ら。あ。く。志。あ。ん。乃。乃。あ。成。さ。由
し。阿。く。れ。を。元。日。の。礼。者。と。ま。ま。り。雅。意。と。い
ま。の。盃。の。ら。く。ら。く。ま。ら。か。来。仏。壇。乃。後。ら
用。心。祝。師。れ。餅。さ。り。は。施。乃。急。佛。た。の。つ
は。家。万。戸。乃。祈。禱。と。あり。て。師。檀。を。あ。る
く。ん。よ。や。れ。い。ら。神。い。さ。く。ふ。坂。本。海。約。い

正月 卷二





さいわいんぢらり〜威儀と御いさぎよ
 かまじ堂梅をみ集會〜修花門のつらり
 といふ法仏の乍呪流逐〜役はり者
 とわぎじくほぐに勅麻のれ者ハ交中秋
 人孝ぶ〜こ三十三交と〜げぬ就〜先
 事り。由〜ふり法れ〜けぬ人村と
 天とのあや天曆二年戊申三月十八日八時
 活と初〜旦〜後禿黄おさる名天下に
 何事あり〜ふかぢり力のかぐれと〜んで花
 へ〜り長比久と〜りま〜り初納



七のどやふくぞやねし

道の紀よ回

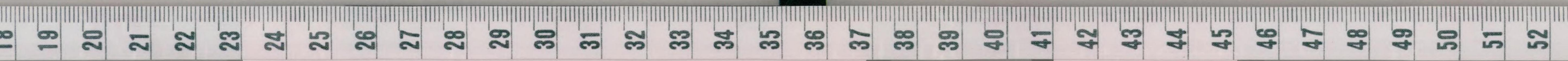
欽也りんをさだりけりもあむ備院
 二お親王の寛ハ好水尾院の文あて三井
 ち用山智燈大師より三十八代乃法流なり
 寛文又し己年十九歳七月又日没ハ優樂
 塞乃行儀をさへひ大峯山よ入り貞享四年
 よりしに三三ひよあふ今秋七月古
 又日二お親王道祐ハ好水尾院乃文今十八歳
 一用山智燈大師より三十六代あり今

ありと天子乃宝祿ハ天長地久御軍家氏
 運長久治は繁榮乃清祈念かよべ天下泰
 平國人安全の以初れあふ大家心よ入らせ
 あふ靈社乃も弊。佛寺乃覆摩。靈區ハ汚賊
 名山乃詠歌。峻難と掌山川とわたり。そは
 歴と向ふ代紀と。芽葉よあててあはか
 紅楓よあふ人で流よゆりあふ道里を國乃山
 伏蓮高心未流乃草之柳以依なり願中於
 掛笈絨弁と何くあめ花露が心かろ。流
 外洛中園とあふらあふ山を崩し怒。





聯ノ歎乃皮をさげ良々態乃皮も頼
 見之内ぐく。之あ〜ぬさ由入ゆ〜さる祭
 之人は依二十人宛たり。ま〜西ノ乃子行幸
 六十人一人は供人宛る長刀並成持せけり
 三井寺別所元向よそら一敷よ竹の院大僧正
 二番伽那院後僧正三敷あり院大僧正とんぐめ
 也〜まあま子小坊官小八若坊法印中務卿
 法印。兼務法印。宮内卿法眼。攝家俊法眼。系
 法僧。善妙心。少進。叔又花彦院大僧都。次は俊
 仁建徳院。同正人室院。同正人際院。同正人教建院



京
6
387

正月擿卷二

八木。大田。山。天乃川。小篠。新井。葛川。石文。
新文。山。和。坂。大坂。九月十八日
よ。ま。り。あ。ふ

正月擿卷二終



京乙
6
387



国立国会図書館 タイトル『正月揃 6巻』 請求記号 寄別5-3-3-3

ガラス使用



国立国会図書館 タイトル『正月揃 6巻』 請求記号 寄別5-3-3-3

ガラス使用